

# 市役所交差点の 安全対策について

市民の声  
小黒 弘

**問** 新庁舎が現在地に建設され、周辺道路における車両・歩行者の流れが増えました。市道西6条北通りと市道北2丁目通りの丁字路交差点に横断歩道が設置されましたが、危険な場面を見えています。事故が起こる前の安全対策が必要ですが、その考えを伺います。

**答** 横断歩道は歩行者優先であり、車両の運転者には横断歩道手前での減速義務や停止義務があります。市役所前丁字路交差点の横断歩道は冬期間の積雪などの影響から、標識や路面標示が確認しづらい状況があり、運転者義務が遵守されなければ交通事故の発生が懸念されます。

歩行者等の安全を確保するため信号機の設置が考えられますが、滝川警察署からは、現在の交通状況では信号機の設置は難しいとの見解が示されています。  
現状としては運転者と歩行者への注意喚起を促す看板を設置するなどの安全対策を講じます。

## 転入・転出時のアンケート 実施について

**問** 砂川市に転入・転出される理由を伺うことで今後の施策に生かされると考えますが、アンケートの実施について伺います。

**答** 市の様々な施策を進めるうえで有効な情報になると考えますので、今後十分に検討したいと考えています。



市役所前T字路交差点

ほかに、「高齢者に向けた本人同意事項の情報について」、「認知症対応型グループホームの整備について」質問しました。

# 小学校休業等対応 助成金他について

公正会  
沢田 広志

**問** 新型コロナウイルス感染が市内の保育園・小学校や中学校での園児、児童生徒達で確認され保育園の休園、小中学校での学級・学年閉鎖等が行われ、子どもを自宅で世話するため、保護者が仕事を休まざるを得なくなりました。また、事業主の指示で休業し賃金が支払われない休業者の発生も懸念されることから国の支援策等があり、これらの手続きを必要とされる人達への市の取組みを伺います。

**答** 国が講じている新型コロナウイルス感染症の影響を受けた労働者に対する支援策のうち「新型コロナウイルス感染症による小学校休業等対応助成金」は、新型コロナウイルス感染症に関する対応として、小学校の他、保育所や幼稚園などが臨時休業した場合、子どもの世話を保護者として行うことが必要となった労働者へ有給の休暇を取得させた事業者に対する助成金であり、「新型コロナウイルス感染症対応休業支援金・給付金」

は、新型コロナウイルス感染症及びそのまん延防止の措置の影響により休業させられた労働者のうち、休業手当の支払いを受けることができなかつた方に対し、その労働者の申請により支援金・給付金が支給されます。これらの制度は、事業者及び労働者への情報を市や商工会議所のホームページに掲載するとともに、若者を積極的に採用・育成し、働きやすい環境づくりに取り組む市内の各社のジョブスタ応援企業にメールで周知しており、窓口でも相談に応じる体制を整えています。



## 小中学校の新型コロナウイルスに係る対応について

新政砂川

武田

真

**問** 令和4年3月1日現在、全道の人口10万人当たりの新規感染者数は286.1人と依然、高い水準です。砂川市においても、1月以降は、

オミクロン株の影響により、市内小中学校の臨時休業が相次いだところですが、

今後、児童へのワクチン接種が予定されているところですが、小中学校の臨時休業の状況等、学習活動等への影響、学校における感染症対策、オンライン授業の実施状況等及びワクチン接種についての学校における考え方について伺います。

**答** 小中学校の臨時休業の状況等については、1月下旬から3月上旬にかけて、小学校では5校で学年閉鎖及び1校で学校閉鎖、中学校では1校で学級及び学年閉鎖をしています。学習活動等への影響については、学習が遅れが生じたようなオンラインを活用した対応をしています。学校における感染症対策につい

ては、各校において、学校保健委員会等の開催及び学校医等と連携し、国の通知等に基づいた取り組みを徹底しています。

オンライン授業の実施状況については、タブレット端末を活用しています。オンライン授業については、デジタル教科書の導入検証では、デジタル教科書の導入検証も始まることから、それらに対応した通信・接続環境の整備について、検討も必要と考えています。

ワクチン接種については、あくまでも任意接種とする国の方針に基づき、各家庭の意向を尊重し、誘導的な対応は行いません。



## アプリの利活用について

創生会

多比良和伸

**問** スマホは、すでに8割以上の世帯で保有され、各自自治体はスマホを使ったサービスを急展開させています。そこで、ごみの分別アプリ、子育て支援アプリ、歩くと貯まる健康づくりアプリ、ヒグマ情報共有サイト、道路環境、街路樹剪定に係るアプリを導入する考えについて伺います。

**答** ごみの分別方法については現在、砂川市公式ライン等にて必要最小限の情報を提供しています。が、先進地の情報を元に取組めるものは公式ラインの中に取込んでいくことを検討します。子育て支援アプリについては、子育て世代の交流機会の拡充、いつでも情報を確認できる安心感の醸成、システムによる業務効率化といった効果が期待されることから今後、導入に向け調査研究します。歩くと貯まる健康づくりアプリについては、自治体のものに限らず、歩いて貯めたポイントを電子マネーに交換するなど、自主的に取組むこ

とは可能と考えており市としての導入は想定していません。ヒグマ情報共有サイトについては、道立総合研究機構の「ひぐまつぶ」があり現時点で導入する考えはありませんが即時性の課題や近隣市町等との広域的情報共有のあり方については引き続き検討します。

道路環境、街路樹剪定通報アプリについては、現在はパトロールをしながら改善に努めています。市民が安全に暮らすことが出来るようにいつでも通報出来る環境も必要と考えますので、先進事例を把握しながら調査研究していきます。

